



令和 8 年度 家庭科実践・研究計画

部 員 ○小室真紀

I 家庭科における 自律した学習者の姿

- 1 科学的な目で生活を見つめ直し、五感を働かせながら得た知識や技能を支える背景や意味を探っている姿
- 2 自分の生活をよりよくするための方法を選択・決定し、獲得した知識や技能を自分の生活の舞台へ広げていく姿

II 家庭科における 授業デザインの取組

- A 日常生活に必要な知識や技能を支える背景や意味にこだわりをもって探究できるよう、吟味し直したり、やり直したりする自由度を保障した実験等の体験的な活動場面の工夫。
- B 多様な視点から自分の生活を見つめ直し、これからの生活をよりよくしたいという意識につながる選択・決定を積み重ねていくことができる単元構想の充実。

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	お世話になった先生方にクッキーを焼いていたときの焦げ目の部分が気に入り、その原因を探り試行錯誤し、よりよいものを目指そうとしていた姿 (2)	活動自体を一回限りだったり時間で区切ったりすることを極力控え、失敗してもやり直すことができる場を保障したこと。やり直す経験を積み重ねることで、学びの安心感につながるであろうという予測のもとで子どもを見取ったこと。(A)
	活動を「気付いたこと」「驚いたこと」「感動したこと」の視点で振り返ったことと、次時の学習課題がつながり合い、活動内容が明確になり真っ直ぐに追究していた姿 (1)	何を確かめたいのか、何に不安を感じているのか子どもと対話しながら一人一人の学習課題がその子どものものになっているかの吟味をしたこと。(B)
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	活動の振り返りが表面的な感想にとどまっていて、振り返りと学習課題の連動が見られない。「何に困っているのか」「何を確かめたいのか」といった具体性に欠け、学習課題が子どものものとなっていない。一つ一つの活動がその場しのぎとなり、学ぶ楽しさを実感しないままになっている姿 (1)	何に気付き、何に驚き、何に感動しているのか、子どもの気付きに気付くライブ感意識の子どもの見取りと教材研究を往復させて問いかけるタイミングを図っていく。お試しの活動や科学的な実験等をすることによって疑問や不安を抱いたり、気付いたりすることもあるのだという学びのゆとりを教師自身ももち、失敗してもやり直したり改善したりする体験を保障していく。(A)